刈払機安全講習

2024 年 3 月 26 日

安全衛生教育インストラクター　鶴見　治

今日のお話

１　基本から確認

２　服装

３　刈払機の構造

　　簡単に

４　刈払機の使い方

　　エンジンの始動と停止

　　刈払い機の操作

５　作業上注意すべきこと

６　作業計画と振り返り

７　刈払機のメンテナンス

８　訳あってこんな形なの

１　基本から確認

２　刈払機の服装

・ヘルメット（飛来・落下物用、墜落時保護用）、防振手袋、耳栓、保護メガネ、笛、すね当て、安全靴（他になた、のこぎり）
スパイク付き安全靴　※　アスファルト、岩の上では滑りやすいので注意。スパイクが枯葉などで詰まる。

３刈払機の構造
—簡単に—

エンジンから動力の伝達経路
・クラッチ
・メインパイプ
・ギヤケース

４　刈払機の使い方
—エンジンの始動と停止—

・15m 以内に人や動物を近づけない。
・周囲に落葉、かれ草、おがくず、燃料などの可燃物のある場所でエンジンの始動は行わない。
・燃料を補給した場所から 3m 以上離れた場所でエンジンの始動を行う。
・不用意な始動は、けがや火災の原因になる。
・エンジンが始動すると、刈刃が回転し始めることがある。刈刃が地面や障害物に触れていないことを確認する。

エンジンの始動

・新しい燃料を入れる。
・プライマリポンプを親指で 7～10 回押す。
・チョークを閉じる。
・リコイルスターターのロープを引く。
・初爆音が聞こえたら、チョークレバーを「開」位置にして再度ロープを数回引く。
・エンジンがかかり、しばらく暖機運転をする。

停止方法

・スロットルレバーをアイドル位置に戻し、ストップスイッチを停止位置にする。
・刈刃が停止したのを確認する。

・機体から離れるときは、必ずストップスイッチを停止位置にしてエンジンを停止する。

４　刈払機の使い方
―刈払機の操作―

現場までの移動

・刈払い機の長さの２倍の距離を保つ。
・刈刃をはずすか刈刃カバーを付ける。

現場内での移動

・刈刃を前にして担ぐ。十分な距離を保ち他者へ気を配る。
　掛けたままの移動はメインパイプを水平に保つ。
・刈刃カバーを必ず取り付ける。

正しい姿勢で作業

・刈払い機は体の右側。
・掛けバンドを必ず着用。
・刈刃は左側を少し下げる。
・刈刃が足元に近づくような機体操作はしない。

右から左に振るように作業

・図に示す刈刃直径の 1/3 の部分で刈ると、切れ味が良い。また草の巻き込みも少なく効率的に作業できる。
・刈幅は 1.5m 程度が適切。女性は刈幅を狭く。

足運び　前に移動

・前への移動は右足から。
・移動はすり足で。

足運び　横への移動

・左への移動は左足から。
・右への移動は右足から。
・移動はすり足で。

刈刃の跳ね返り（キックバック）に注意

・刈刃の先端から右側部分が樹木などの障害物や硬い地面に接触すると、刈刃の回転で障害物を駆け上がる力が働き、作業者の右側に向かって跳ね返すキックバックが発生する。
・雑草などで隠れている切り株や石などに刈刃が接触してキックバックを起こすことがある。
・雑草の中にそのような障害物がないかよく確認してから作業する。

近接作業

近接作業は行わない。１５ｍ以上離れる。

刈刃部に草などが巻き付いたとき

・すぐにエンジンを停止し、刈刃の回転が停止してから取除く。
・草などが巻き付いた状態で無理に作業を続けると、故障の原因となる。

エンジンの回転は草の抵抗に合わせて

・柔らかい草は、スロットルを半開程度で十分、密生したヨモギやつる草などは回転数を上げる。
・回転速度が低すぎると、草がからみやすくなる。

背の高い草は

・刈払いは 2 回に分けて刈る。
・草の絡みつきが少ない。
・草が左側に倒れる。

斜面での刈払い

・上下作業を避ける。
・十分な間隔をとる。１５ｍ。
・斜面での刈払いの方向は右肩を斜面上方とし、斜面の右から左へ。
・水路際の場合は左から。草を水路に落とさないため。

刈払いの方向

・斜面上部から下方に向かった刈払いは危険。

危険個所の表示

・安全な作業のために必要。
・斜面は不安定なので、特念入りに。

斜面での刈払いの高さ

・斜面ではきれいに刈払わない。
・約 10cm 程度の高さを残して刈払う。
・斜面の保護、斜面の崩壊防止。

操作時間

・刈払機の操作は当面 2 時間以下。
・刈払機の一連続操作時間はおおむね 30 分以内。
・一連続作業時間の後、5 分以上の休止時間を設けること。

５　作業上注意すべきこと

・悪天候：風速 10m以上、大雨（1 回の降雨量が 50 ㎜）、大雪（一回の降雪量が 25 cm以上）は中止。
・雷の発生：至急、作業を中止し、車、建物等に避難する。
・高温時：作業を行わない。（熱中症の基準等は他の資料を）

６　刈払機のメンテナンス

作業後のメンテナンス：事前準備

・必ずエンジンを止めて機体が冷えた状態で行う。
・点検をする際は手袋を着用。
・点検・整備は、取扱説明書に従って行う。
・刈刃とナットカバーのすき間やギヤケースとのすき間に巻き付いた草等があれば取除く。

刈払機のメンテナンス：毎日

・刈刃をはずし、チップの飛び、ひび割れ、欠け曲がり、摩耗等の確認。使用後は外し、錆び付を防ぐ。（チップソーのチップが１割、刈刃が損傷していたら交換）※　真円ではない。
・歯車室周辺の汚れ確認。
・燃料タンク空気孔（ブリーザー）の目詰まり確認。
・エンジン外部の掃除。
・エアクリーナーの汚れ確認、掃除（チョークを閉じる）。
・吊り金具、吊りバンドの損傷。
・ねじ等の緩みと脱落。
・緊急離脱装置、飛散防護装置の機能確認。

刈払機のメンテナンス：毎週（40 時間）

・燃料フィルターの汚れの確認。
・燃料タンクの汚れと損傷。
・歯車室のグリースの補充。

刈払機のメンテナンス：毎月（200 時間）

・シリンダ冷却フィンの汚れと損傷の有無。
・マフラーの汚れと損傷の有無。
・プラグの機能点検。
・リコイルスターターの汚れと損傷の有無。
・防振ゴムの劣化と損傷の有無。劣化している場合は全部交換。
・動力伝達軸の摩耗等の有無。

長期間使用しない場合は

・長期間（1 ヶ月以上）保管するときは、燃料タンクから燃料を抜き取ってから自然に停止するまで空運転し、気化器の中の燃料を完全になくす。
・古くなった燃料は故障の原因となるので使用しない。
・ほこり、湿気のない乾燥した、また温度が 50℃以上にならない場所に保管する。
・子供の手の届かない安全な場所に格納する。
・刈払機を移動、保管する場合は安全のため、刈刃を外す。（錆付きを防ぐ）
・損傷箇所がある場合は必ず修理してから格納する。

7　作業計画と振り返り

・事前に作業計画を立て、振り返りをすることは次の作業の効率化と安全の確保につながる。

作業計画

・作業前に、作業の期日、場所、作業手順、緊急連絡体制表、救急用具のリスト、注意を要する事項、作業に必要な用具等を計画書に記載する。

作業前の環境整備

・作業上注意すべき場所の明示、ごみ等の除去。

作業計画等の共有

・作業計画を作業者全員で共有するため、作業前にツールボックスミーティングを行う。

作業後の振り返り

・作業直後に作業手順、注意を要する事項、用具の選定は適正だったか等を振り返る。
・作業上「ヒヤリとした」、「ハットとした」ことを作業後の振り返りで書き出し、それらを集計し、事故対策を立てる資料とする。
　※　機械は故障する、人間はミスをすることを前提に行う。
・ヒヤリハット報告書（例）

８　訳あってこんな形なの

大谷翔平のピッチングフォーム

・野球のボールを投げる時は、体を右から左に体を振り重心は右足から左足に移る。（右利き）

刈払い機で草を刈るときも

・刈払機で草を刈るときも体を右から左に体を振り、重心は右足から左足に移る。（右利き）
・右足が半歩前へ。

刈払機は右利き用

・刈払機は右利き用に設計されているので、右から左に体を振る場合、刈刃の左側で草を刈ることとなる。
・刈刃の左側で草を刈るということは、刈刃を左回転させればよい。
・刈刃は左回転するので、キックバックは刈刃の右側で起こる。

刈払い機の形

・したがって、体の右側にエンジンが来るように設計されている。
・排気マフラーは機械の右側。
・エアクリーナーは機械の左側。
・ツーグリップの場合、大鎌を使った刈払いの場合を想定して、エンジンを左側にする方もいるが、以上のことからツーグリップもエンジンは体の右側。

飛散防護カバー

・防護カバーは刈払い作業に伴い、刈刃で物が、飛散し事故を防ぐためのもの。
・防護カバーを外すあるいは位置を変え作業をし、事故が発生した場合、事故の責任が問われる場合がある。